HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	穀物の価格伝達に関する計量経済学的研究 : 韓国と日本の比較分析 [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	承, 俊鎬
Citation	北海道大学. 博士(農学) 甲第14798号
Issue Date	2022-03-24
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/85216
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Seung_Junho_review.pdf (審査の要旨)

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学　位　論　文　審　査　の　要　旨

博士の専攻分野の名称　博　士（農学）　　氏名　　承　俊　鎬

審査担当者　主　査　教　授　近　藤　　巧
副　査　教　授　山　本　康　貴
副　査　准教授　合　崎　英　男

学　位　論　文　題　名

穀物の価格伝達に関する計量経済学的研究
－韓国と日本の比較分析－

本論文は６章，図 45，表 32，引用･参考文献 182 を含む総頁数 144 の和文論文である。別に１編の参考論文が添えられている。

原材料価格が下落しても産出物価格は下落しないなどの非対称的価格伝達は例外的な現象ではなく一般的な現象であると主張されてきた(Peltzman，2000)。そこで本論文は，韓国と日本において食料としての重要性が高い小麦，トウモロコシ，大豆，米の価格伝達と穀物輸出国の市場支配力について非対称的自己回帰分布ラグ（Asymmetric Autoregressive Distributed Lag，非対称的 ARDL）モデルと残余需要モデルを用いて分析した研究である。

第１章では，論文の問題意識，既存研究，韓国と日本の比較研究の意義，課題を述べた。

第２章では，国内外の穀物需給の現状と分析モデルについて検討し，分析方法について述べた。穀物輸入の現状を踏まえ，分析対象を輸入穀物（小麦，トウモロコシ，大豆）と国内産穀物(米)に大別した。そして，輸入穀物については，輸出国での価格伝達と輸入後の国内での価格伝達に分析対象を区別した。市場支配力の分析は，両国において輸入依存度が高い米国に分析対象を定めた。

第３章では，米国の韓国と日本への穀物輸出における非対称的価格伝達および市場支配力について分析した。米国産小麦，トウモロコシ，大豆の農家受取価格の変化が両国の輸出価格に及ぼす長期的な影響は，価格上昇時が下落時より大きく，正の非対称性が存在することが明らかになった。米国からの輸入シェアが高い日本の輸入トウモロコシと大豆に関して米国の市場支配力は認められたが，輸入シェアが低い小麦については市場支配力が認められなかった。一方，韓国は，すべての穀物において日本より米国への輸入依存度が低く，米国の市場支配力の存在は検出されなかった。

第４章では，産業連関表に基づき韓国と日本における輸入小麦，トウモロコシ，大豆の投入産出構造を明らかにし，輸入から加工を経て消費者に達するまでのバリューチェーンにおける価格伝達の非対称性を分析した。その結果，韓国では，小麦，トウモロコシ，大豆の輸入価格から 1 次加工食品価格への価格伝達において，長期および短期ともに正の非対称性が検出された。日本では，トウモロコシを除き，小麦と大豆の 1 次加工食品への長期および短期の価格伝達において，全般的に正の非対称性が認められた。２次加工食品への価格伝達については，日本の大豆と韓国のトウモロコシにおいてのみ非対称性が認められた。

第５章では，韓国と日本における米の流通と価格形成の因果関係を踏まえ米価の価格伝達について分析した。その結果，韓国と日本の地域別（産地別）米の価格伝達において，長期的な非対称性は認められなかった。これは，韓国の米産地と卸売市場，両国の卸売市場（集出荷段階）と小売市場間において，競争構造が定着していることを示唆するものである。韓国の市場別米価格伝達の分析結果から，伝統的市場では長期の正の非対称性が認

められ，大型小売店舗流通市場では，長期の非対称性は認められなかった。

第 6 章では，各章の分析結果の要約と総合的な考察を行った。国内産穀物においては輸入穀物より効率的に価格が伝達されていた。国内産穀物である米については，韓国と日本の両国とも産地から小売市場までの価格伝達において長期の非対称性は認められず，市場が競争的であることが明らかになった。一方，輸入穀物は，輸出国の生産者から輸入および 1 次加工を経て消費者に達するまでの価格形成過程全般で非対称的価格伝達が認められた。すなわち，穀物輸出国のみならず，寡占的な市場構造の下で穀物の 1 次加工企業が市場支配力を行使している可能性が高い。

韓国と日本との比較分析の結果から，価格伝達に関しては類似した結果が確認されたが相違点も明らかになった。第一に，穀物輸出国の市場支配力は日本にのみ検出された。したがって，韓国における非対称的穀物価格伝達は，市場支配力以外にも情報の非対称性など他の要因で生じていることが残余需要モデルの推定結果から示唆された。第二に，日本に比べ韓国は輸入穀物に関して正の非対称的価格伝達の発生頻度が高く，非対称性の程度も大きい。これは，日本の穀物の加工食品市場が韓国より競争的であることを示唆するものである。

これらの分析結果に基づき，日本は穀物の輸入ルートを多様化し米国への過度の輸入依存度を改め，韓国は輸入穀物の加工産業に対して輸出国の価格や輸入価格などの穀物加工品の原料価格に関する情報発信やモニタリングを強化するなどより競争的な市場構造の醸成に努める必要性を指摘した。

以上のとおり本論文は，韓国と日本における主要穀物の価格伝達と市場支配力を体系的に比較分析した研究成果であり，穀物市場の競争構造を明らかにするとともに政策的含意に関しても示唆するところが大きい。

よって，審査員一同は，承俊鎬が博士（農学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認めた。